

西高殿若葉幼稚園 令和3年度 自己評価結果公表シート

1. 本園の教育方針・教育目標

【教育方針】

人や生きものを慈しむ心、旺盛な好奇心、物事に取り組む意欲、最後まであきらめない粘り強い心。
 集団の中での遊びや保育、またその延長線上にある行事などを通じ、子どもと保育者が日々過ごし、体験してゆく中で、人とのかわり合いやルールを学びながら、子ども自らが育とうとする力を、感じ合い、喜び合いながら、心身ともに健やかな幼児期を過ごせるよう保育を行う。

【教育目標】

- 健康でのびのびと活動する子ども
 - 「きれい」「ふしぎ」「四季」を感じ取ることのできる感性豊かな子ども
 - 物事に一生けんめい取り組み、あきらめない心を持つ子ども
 - 人の気持ちが理解できる、やさしい子ども
 - ルールを守り、仲よく遊べる子ども
- に育ってゆけるよう、教職員一丸となって保育にあたる。

2. 令和3年度、重点的に取り組む目標及び計画

- ・ 安心、安全な教育・保育環境を保障するための衛生、安全対策の充実
- ・ 教育・保育力向上のための研修の充実
- ・ 保育の可視化・発信・共有

評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組みの状況									
衛生・安全対策の充実	<p>具体的には感染拡大時等はウレタンマスクから不織布マスクの着用に切り替える。環境面においては保育室内および共有箇所の定期的な消毒、サーキュレーター、空気清浄機、エアコンを利用した空気の対流、保育場でのディスタンスに対する意識、園児の行動把握なお、コロナ2年目において教員自身が意識をもって衛生・環境に対する意識の向上に取り組んだ。ただ、日々忙しくしている保育者のため、室内換気が疎かになる場面があったため、都度、指示を行い改善に努めた。</p> <p>また、コロナ禍における継続的な衛生・環境教育（建物内は食事以外通年マスク着用・日常の手洗い習慣の指導・検温・手指消毒・黙食などの食事におけるマナー、パーティションの設置）など、徹底した対策を取りながら保育を行った。</p> <p>その他、園内における危険箇所の共有として、保育活動中における危険や危険が想定される箇所について定期的に園内研修を行った。年間を通じて園内において大きなケガは発生していないが、年度末に園外保育の際、公園遊具にて大きなケガ（骨折）が発生したため、事故発生原因の検証と対策を行った。</p>									
質向上のための研修の充実	<p>教育・保育力の向上のため、積極的な研修参加を行なう。（一社）大阪市私立幼稚園連合会が主催する教員研修事業に参加し、様々なカテゴリーの研修を受講し、教員自身の教育・保育力の向上と日常の保育現場へのフィードバックを行うことができた。また、他教員への伝達研修として、受講者による研修レポートを共有し、対面での伝達を行うとともに、随時、閲覧できるようにした。</p>									
保育の可視化・発信と共有	<p>コロナ禍により、保護者が園に出向く機会や園内環境や日常の保育場面を見る機会が極端に減っている現状が続いている。これまで通り、園だより、クラスだよりによる園のすがたの発信を行うとともに、ウェブサイトによるブログ、SNSによる子どものすがた、保育内容、園内環境などの情報発信による可視化を行った。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"><一般公開年間投稿数></td> <td style="text-align: center;"><在園児向け年間投稿数></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;"><ブログ></td> <td style="text-align: center;">32 (96)</td> <td style="text-align: center;">213(207)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;"><インスタグラム></td> <td style="text-align: center;">189 (289)</td> <td></td> </tr> </table> <p>令和2年度より投稿回数が減っている理由（ ）内は令和2年度）として、令和2年度は休園期間および臨時休園期間が多かった分、投稿が多くなったことが要因と考えられる。</p>		<一般公開年間投稿数>	<在園児向け年間投稿数>	<ブログ>	32 (96)	213(207)	<インスタグラム>	189 (289)	
	<一般公開年間投稿数>	<在園児向け年間投稿数>								
<ブログ>	32 (96)	213(207)								
<インスタグラム>	189 (289)									

3. 学校評価の目標・計画の総合的な評価

コロナ禍もオミクロン株以降、成熟したウイズコロナの時代へと移りつつあるあるが、コロナ前とアフターコロナにおいては、物事の価値観などが大きく変わり、令和3年度も教育・保育の場面において大きな見直しを図る場面の連続となった。これまでにない経験が、良くも悪くも新しい価値感が生まれてくる中で、子どもの育ちにとって大切なものを守りつつ、時代や状況に合わせた対応が必要となる。年度末に行なった保護者アンケートからも園児、保護者、保育者の日々の関わりや幼稚園教育への効果の高さがうかがえた。一方、若干名ではあるが、その反対の評価もあったことを受け止め、次年度に向け改善を行う。

4. 今後取り組むべき課題と充実すべき課題

【ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた教育・保育のあり方】

コロナ禍3年目を迎え、今後どのような流れになるのか予測しにくい状況ではあるが、確実にウイルスとの共存に近づいている状況と考えられる。保育現場においての保健衛生面の意識向上は以前に比べ格段に高まっている反面、感染対策が当たり前になったいま、園内において過度の除菌、消毒が、幼児にとってかえって抵抗力を弱める懸念もある。また、マスクの着用による熱中症や相手の表情の読み取りにくさなど、感染予防と相反する状況がまだしばらくは続くものと思われる。これまで幼児のコロナ罹患による重症化の低さを考えた場合、ウイルスと共存しながらの保育を継続していかなければならないのは言うまでもない。引き続き、保護者の理解と協力を得ながら、状況に応じた保育を丁寧に行うことが必要と考える

【安全管理の徹底と意識の向上】

慣れ親しんだ園庭や遊具で園児は活発に活動し、集団での活発な活動が、子どもの認知力、非認知力、運動能力を高めていくことは言うまでもないが、子どもの行動や管理ひとつで危険な場所へと豹変する場合もある。管理者がトップダウンで危険を明示し、単に危険を回避するだけではなく、保育者自身がリスクとベネフィットという両面の意識を高めていかなければ、それは幼児の発達に寄与するものではない。とは言え、保育者自身のこれまでの生活体験の差や経験値などによる個々のリスクに対する意識の差は様々であるため、リスクに対する共通認識が重要となる。保育室、共用部分、園庭、遊具、スクールバス、園外活動など、場所や状況に応じた考えられるリスクを拾い上げ、職員全員で共通理解（ヒヤリハットなど）を行うことが重要と考える。

【発達支援・子育て支援の充実】

子育て支援に関し、未就園児に向けての安心して遊べる遊び場の提供、保護者同士のコミュニケーションの場としての園庭開放など、非常に流動的な対応が必要とされるコロナ禍においても、状況を的確に把握しながら、できる限り定期的に開催を行う。また、発達支援に関しては、定期的に訪問する当園専属のスクールカウンセラーによる専門的見地から保育者が助言を受けながら、園児一人ひとりのより良い発達支援を行う、また、保育者の発達支援に関する知識や具体的なスキル向上のため、園内研修、その他研修の受講を積極的に行う。

6. 学校関係者の評価

令和3年度も引き続きコロナ禍となったが、その厳しい状況下においても、子どもの育ちを一番に考え、保育を行っておられた。特に園内においては徹底した衛生対策がなされ、その人的な労力は大変だったことと思われる。また、令和3年度は新人の先生も複数名あったが、先生同士のコミュニケーションが良好なため、子どもにとって望ましい安定した保育が提供できていた。また、SNS等での積極的な園情報の発信は、外部者からも園と子どもの育ちをリアルタイムで共有することができた。厳しい状況はまだ続くと予想されるが、次年度も引き続き、若葉らしい、子どもの育ちと保護者に寄り添った保育の提供を望む。

7. 財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。